

ACT (Artists Contemporary TOKAS) Vol. 2

停滞フィールド

Stasis Field

文化でつながる。未来とつながる。
THE FUTURE IS ARTTokyo Tokyo
FESTIVAL

2020年2月22日(土)～3月22日(日)

トーキョーアーツアンドスペース本郷



東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団では、Tokyo Tokyo Festival の一環として「ACT」(Artists Contemporary TOKAS) Vol.2を実施しています。

トーキョーアーツアンドスペース(TOKAS)では、これまで公募展や企画展、海外派遣などを通じて、アーティストを段階的、継続的に支援し、またその活動を紹介してきました。2018年度より開始したシリーズ「ACT」では、TOKASのプログラムに参加経験のあるアーティストを中心に、今注目すべき活動を行っているアーティストの企画展を開催します。

■ 展覧会概要

展覧会名: ACT Vol.2「停滞フィールド」

英語タイトル: ACT Vol.2 "Stasis Field"

会期: 2020年2月22日(土)～3月22日(日)

会場: トーキョーアーツアンドスペース本郷 (東京都文京区本郷2-4-16)

開館時間: 11:00 - 19:00 (最終入場は30分前まで)

休館日: 月曜日(2/24開館)、2/25

入場料: 無料

主催: 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 トーキョーアーツアンドスペース

参加作家: 田中秀介、広瀬菜々&永谷一馬、渡辺 豪

協力: ANOMALY

ウェブサイト: www.tokyoartsandspace.jp/

< お問い合わせ >

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース(公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館) 広報担当: 市川、竹野

TEL: 03-5245-1142 / FAX: 03-5245-1154 / E-mail: press@tokyoartsandspace.jp

■ 展覧会について

「停滞フィールド」とは、SF 小説やゲームなどで使用される言葉で、時間が停止しているか、また極度に遅延され、物体が停止しているように見える領域を指します。「停滞フィールド」にある物質は、時間が止まり、結晶化することで凝視できる状態になる、あるいは遅くなることによって歪みが生じます。そうした特殊な場所での体験は、既存の考えやこれまでの感覚を変化させる転機となるかもしれません。

本展で紹介する 3 組は、それぞれの観点から時間を停止したり、遅らせて凝視できる状態にし、その停滞によって生じる差異やズレ、歪みを積極的に受け入れて作品に表しています。あらゆる事象が高速化し、処理されていく現代社会において、「停滞フィールド」をとおして空間や認識を変容させることを試みます。

■ 参加作家／略歴／広報用画像 ※この他にも広報用画像を用意しております。詳しくは広報担当までお問い合わせください。

田中秀介 TANAKA Shusuke

TWS-Emerging 2016 参加、2016 年トーキョーワンダーウォール賞受賞



1. 《突貫風情》油彩、キャンバス 2018

田中は日々出会う景色から、新鮮な感覚を抱かせるものや違和感、恐怖などを覚える瞬間を身体に刻み、それを手がかりとして絵を描き始めます。田中がその場で得た感覚をとおして描き出された光景は、ある一点が極端に大きく描かれたり強調されたりすることで、空間が歪み、奇妙な現実感を生み出します。本展では新たに遭遇した風景を描いた絵画を発表します。

■プロフィール

1986 年和歌山県生まれ。大阪府を拠点に活動。2009 年大阪芸術大学美術学科油画コース卒業。

主な展覧会に「忘れようとしても思い出せない」(ボーダレス・アートミュージアム NO-MA、滋賀、2019)、「清須市はるひ絵画トリエンナーレアーティストシリーズ Vol.87 田中秀介展 ~カウンターライフ~」(清須市はるひ美術館、愛知、2018)、「アーカイブをアーカイブする」(みずのき美術館、京都、2018)、「ふて寝に晴天、平常の炸裂。」(Gallery PARC、京都、2017)、「アンキャッチャブル・ストーリー」(瑞雲庵、京都、2017)、「TWS-Emerging 2016『円転の節』」(TWS 渋谷、東京)、「トーキョーワンダーウォール 2016 入選作品展」(TWS 渋谷、東京)、「FACE 2015 損保ジャパン日本興亜美術賞展」(損保ジャパン日本興亜美術館、東京)など。主な受賞や助成歴にはるひ絵画トリエンナーレ準大賞受賞(2018)、「第 24 回ホルベイン・スカラシップ」(2011)など。今後の展示予定に「なつやすみの美術館 10:feat. 田中秀介(仮)」(和歌山県立近代美術館、2020)がある。

広瀬菜々&永谷一馬 HIROSE Nana & NAGATANI Kazuma

「リサーチ・レジデンス・プログラム 2017」参加



2. 《Still life》磁器、サイズ可変、2013年からの継続作品

2007年にドイツに移住し、制作を続ける2人組のアーティスト。日用品や日常的に目にするものを変化させ、異化することにより、見る者は何を知覚しているのかを問いかける作品を制作しています。

本展では、野菜や果物、コップなどを型取りし、特別に配合された粘土によって成形された約300個の磁器から成るインスタレーション《Still life》を展示。オブジェクトが何かの力によって故意に変形されているように見える凹みは、焼成するときの熱に反応して生じた歪みです。それらの夥しい数の白いオブジェクトが空間全体を変容させ、見る者に慣れ親しんだ物事の視点を再認識するよう提示します。

■プロフィール

1980年（広瀬）、1982年（永谷）大阪府生まれ。ドイツを拠点に活動。2014年ブレーメン芸術大学美術学部マイスターシューラー課程修了。2005年京都精華大学大学院芸術研究科博士前期課程修了（広瀬）。2004年京都精華大学芸術学部造形学科陶芸分野卒業（永谷）。

主な展覧会に「Out of the Ordinary」（ウルム芸術財団、ドイツ、2019）、「Why don't cats wear shoes?」（クンストラーハウス・ゲッティンゲン、ドイツ、2019）、「Why don't cats wear shoes?」（クンストフェライン・クックスハーフェン、ドイツ、2019）、「Another Place」Anna Bartとの対話展（国際交流基金ケルン、ドイツ、2018）、「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」（新潟、2018）、「Still Life」（ヨハン・フリードリヒ・ダナイル美術館、ザルツヴェーデル、ドイツ、2017）、「Of the Universe」（ヴェーザーブルク現代美術館、ブレーメン、ドイツ、2014）など。

主な受賞や助成歴にベルギッシュ・アートアワード観客賞（ゾーリングン美術館、ドイツ、2017）、ポーラ美術振興財団在外研修（ドイツ、2015）、エアスターフェルクリンガー・アートアワード観客賞（ザール造形芸術大学、2013）、芸術大学最優秀賞（ブレーメン芸術大学、2012）。2018年よりLBBW財団、ポーラ美術振興財団、野村財団他の助成を受けドイツ、ウルムでの2年間のレジデンスプログラムに参加。

渡辺 豪 WATANABE Go



3. 《M5A5》(部分) ビデオインスタレーション(クワトロチャンネル)、2017

実際の風景や身の回りにあるものを3DCGで再現し、物質的・光学的法則から離れてゆっくりと変化する映像作品を制作。2017年に1年間フィンランドで過ごした経験をもとに、日本とは異なる光に対する感覚を深めた映像を制作しました。本展では本と洗濯物の山をモチーフに、それぞれに光が当たる順序や場所を組み換えることで、物質性や空間性、時間性を問いかける新作映像インスタレーションを発表します。

■プロフィール

1975年兵庫県生まれ。東京都を拠点に活動。2002年愛知県立芸術大学美術研究科油画専攻修了。

主な展覧会に「あざみ野コンテンポラリーvol.8 渡辺豪 ディスロケーション/dislocation」(横浜市民ギャラリーあざみ野、2017)、「光差 - 境面 III -」(URANO、東京、2017)、「創立50周年 記念展示芸術は森からはじまる」(愛知県立芸術大学構内全域、2016)、「places」(ARATANIURANO、東京、2015)、「ロジカル・エモーションー日本現代美術」(ハウス・コンストラクティブ美術館、チューリッヒ、スイス、クラクフ美術館、クラクフ、ポーランド、ザクセン=アンハルト州立美術館、ザクセン=アンハルト、ドイツ巡回、2014-2015)、「The APB Foundation Signature Art Prize」(シンガポール美術館、2014)、「あいちトリエンナーレ 2013」(愛知県内各所、2013)、「Asia Code: ZERO」(SOMA 美術館、ソウル、2013)など。受賞歴に第24回五島記念文化賞美術新人賞受賞(2013)。

■ 関連イベント

※参加作家は変更となる場合がございます。予めご了承ください。日本語のみ。

参加作家によるトーク

日 時：2月22日(土)16:30 - 18:00
 出演：田中秀介、広瀬菜々&永谷一馬、渡辺 豪
 会場：トーキョーアーツアンドスペース本郷

「ACT(Artists Contemporary TOKAS) Vol. 2『停滞フィールド』」
広報用画像申込書

Fax 番号: **03-5245-1154**

Email: **press@tokyoartsandspace.jp**

トーキョーアーツアンドスペース広報担当宛

(ご希望の広報用画像番号にチェックを入れてください)

1 2 3

掲載媒体名(特集・コーナー名)

種別 TV ラジオ 新聞 フリーペーパー ネット媒体 その他()

掲載/放送予定日 月 日 発売/放送(月号)

貴社名

ご担当者名

Tel

Fax

E-mail(画像はメールでお送りしますので必ずご記入ください)

画像到着希望日 月 日 時頃までに送付

※ご記入いただいた個人情報は、お問い合わせ及びご要望に対応させていただく目的のみ利用させていただきます。

※お急ぎの場合はメールもしくは、お電話でお問い合わせください。

【注意事項】

※画像データは申請時の目的以外での使用はできません。ご掲載や放送以外の目的での写真のご利用はご遠慮ください。また、申請時とは別の媒体での使用、再販等の場合は改めて申請してください。

※画像データは、メールにてお送りします。お手元に届くまで1~2日(土日祝休み)ほど頂戴いたしますのでご了承ください。

※作品画像は全図でご使用いただき、トリミング、文字載せはお控えください。必ず所定のキャプション等を併記してください。

※提供した画像データは、使用后速やかに破棄してください。画像が無断で第三者に利用されることのないよう、Web サイトへのご掲載は、画像にコピーガードや転載不可の明記をしてください。

※情報確認のため、事前に記事原稿をお送りください。

※取材の内容が収録された番組等はビデオ・DVD を一部、印刷物(掲載誌・雑誌)については現物を1部もしくはコピーの場合は3部ご送付ください。Web サイトの場合は、掲載時に URL をお知らせください。

<お問い合わせ> ※校正ゲラ及び掲載誌紙・DVD 等は下記宛にお送りください。

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース(公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館)

広報担当: 市川、竹野

TEL: 03-5245-1142 / FAX: 03-5245-1154 / E-mail: press@tokyoartsandspace.jp